

第6回 本川流域水害対策協議会 議事概要

1 日 時 令和8年3月18日(水) 13時00分～14時30分

2 場 所 竹原市役所 委員会室
(竹原市中央五丁目6番28号)

3 出席者

役 職	氏 名	備 考
広島大学大学院 先進理工系科学研究科 教授	内田 龍彦	座長
広島工業大学 工学部 環境土木工学科 准教授	今川 朱美	
元竹原消防署長	土田 勇	
竹原市長	平井 明道	
広島県 農林水産局長	向井 雅史	
広島県 土木建築局長	藤田 士郎	会長

4 議事

流域水害対策計画に係る各取組の実施について

5 主な意見

- 地域防災の最前線を担う基礎自治体として、今後も地域の実情を踏まえながら多層的な取組を積極的に進める。
- 流域治水の取組効果を地域住民や関係機関と共有する仕組みづくりが重要である。
- 工事の実施にあたり、地元へ丁寧な説明を行うこと。また、貯留機能保全区域や浸水被害防止区域の指定は、地域住民への影響が大きいため、特に丁寧な説明を行うこと。
- 本川の河川整備について、早期完成に努めること。
- 高下谷川の河川整備と土砂流出対策については、過去に土砂洪水氾濫が発生した箇所でもあるため、河川整備を進めるとともに土砂流出の発生源を監視すること。合わせて、新規の治山堰堤の整備について、地域住民とコミュニケーションを取って計画的に事業を進めること。
- 浄化槽の雨水貯留槽への転用について、丁寧な説明を行い、地域住民の理解に努めること。
- 雨水貯留施設の平常時の利活用について、地域住民が満足する有効活用を検討するとともに、洪水時の機能が損なわれないようにすること。
- ため池の低水位の管理について、整備後は定期的な点検・維持管理を行い、大雨時の施設の安全性を確保すること。
- 防災アプリの構築について、洪水時の緊急時において適切な利用できるよう、平時の訓練や出前講座等で活用するなど、取組の工夫を図ること。